

使用方法が登録されている除草剤の適用試験を実施しており、①水口からの流し込みや周辺散布により圃場全体に除草剤成分が広がっていること、②概ね圃場全体に除草効果があることを確認している。

今後、このような省略散布が可能な剤に加えて無人ヘリ等による空中散布に適合した剤が開発されることを望み

たい。

引用文献

富山県農林水産部 2016. 生産部会小委員会資料.

富山県乾田V溝直播栽培ワーキンググループ 2011. コシヒカリの乾田V溝直播マニュアル(暫定版).

富山県農林水産総合技術センター農業研究所 2011. 「平成22年度農業分野試験研究の成果と普及」富山県農林水産総合技術セン

ター農業研究所, 富山県, p.3-4.

富山県農林水産総合技術センター農業研究所 2013. 「平成24年度農業分野試験研究の成果と普及」富山県農林水産総合技術センター農業研究所, 富山県, p.1-4.

富山県農林水産総合技術センター農業研究所 2016. 「平成27年度農業分野試験研究の成果と普及」富山県農林水産総合技術センター農業研究所, 富山県, p.1-2.

田畑の草種

堇(スミレ)

スミレ科スミレ属の多年生草本。国産のスミレは約50種といわれ、すべてスミレ属の多年生草本。花は基部に大きな距を持つ「すみれ」型で、誰がみてもすぐに分かる。ただ、50種のスミレを区別するのは難しく、誰でも分かるのは「スミレ属」までである。

万葉集では「須美礼」「都保須美礼」とあてた。その後時代が下がっても、歌に取り上げられるのは「すみれ」か「つぼすみれ」。今でこそスミレ(*Viola mandshurica*)とツボスミレ(*V. verecunda*)が区別されているが、当時は家の庭先からその向こうに広がる野までを「坪」と呼び、その「坪」に生えるすみれをつぼすみれと呼んでいたとか。いずれにせよ、かわいいもの、愛しいもの、(特に女性)を指し示すものが多い。

万葉集で山部赤人は、

「春の野にすみれ摘みにと来し我れぞ

野をなつかしみ一夜寝にける(巻8)」

今年も春の野にすみれを摘みにやってきたのだけれど、可愛

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

い娘さんのことを懐かしく思い出し一晩寝てしまったことよと詠い、大伴大嬢は異母妹の坂上大嬢を溺愛し、歌を贈る。

「茅花抜く浅茅が原のつほすみれ

今盛りなり我が恋ふらくは(巻8)」

高田女王も、春の雨に煙る山吹の下ですみれの花が今を盛りと咲いていることよ、春になって乙女子たちも賑やかになってきたことよ、と詠う。

「山吹の咲きたる野辺のつほすみれ

この春の雨に盛りなりけり(巻8)」

赤人の歌を意識した源有房に、こんな歌がある。

「をとめごが真袖につめるつぼすみれ

野に見るよりもなつかしきかな(有房集)」

乙女子が両袖にすみれをいっぱい抱えている、何とも愛らしいことよ、どこで摘んできたの、と思わず声をかけたくなる。若々しい乙女達の春の躍動である。